



DAIHATSU



C O R P O R A T E P R O F I L E

会社案内

トヨタグループビジョン
TOYOTA group vision

次の道を発明しよう
Inventing our path forward,together

ダイハツ企業理念 DAIHATSU corporate philosophy

使命
Mission

お客様に寄り添い、暮らしを豊かにする

Staying close to our customers and enriching their lives

心得
Value

お客様のより良い毎日を考えます

Think about how to improve our customers' lives

自らの行動で、笑顔を増やします

Bring more smiles to people's faces through our actions

互いの優しさで、ともに歩みます

Move forward together with kindness toward each other

現地現物で、正しい仕事をします

Carry out work properly through genchi genbutsu

知恵と工夫で、進化を続けます

Continue to evolve with wisdom and ingenuity

スローガン
Slogan

Light you up

< 使命に込めた想い >

お客様に寄り添い、暮らしを豊かにする

それは、1907年の創業以来、ダイハツが大切にしてきた変わらぬ想いです。

当社のスモールカーは、環境に優しく、お求めやすい価格と使いやすさで、
人々の暮らしを支えてまいりました。

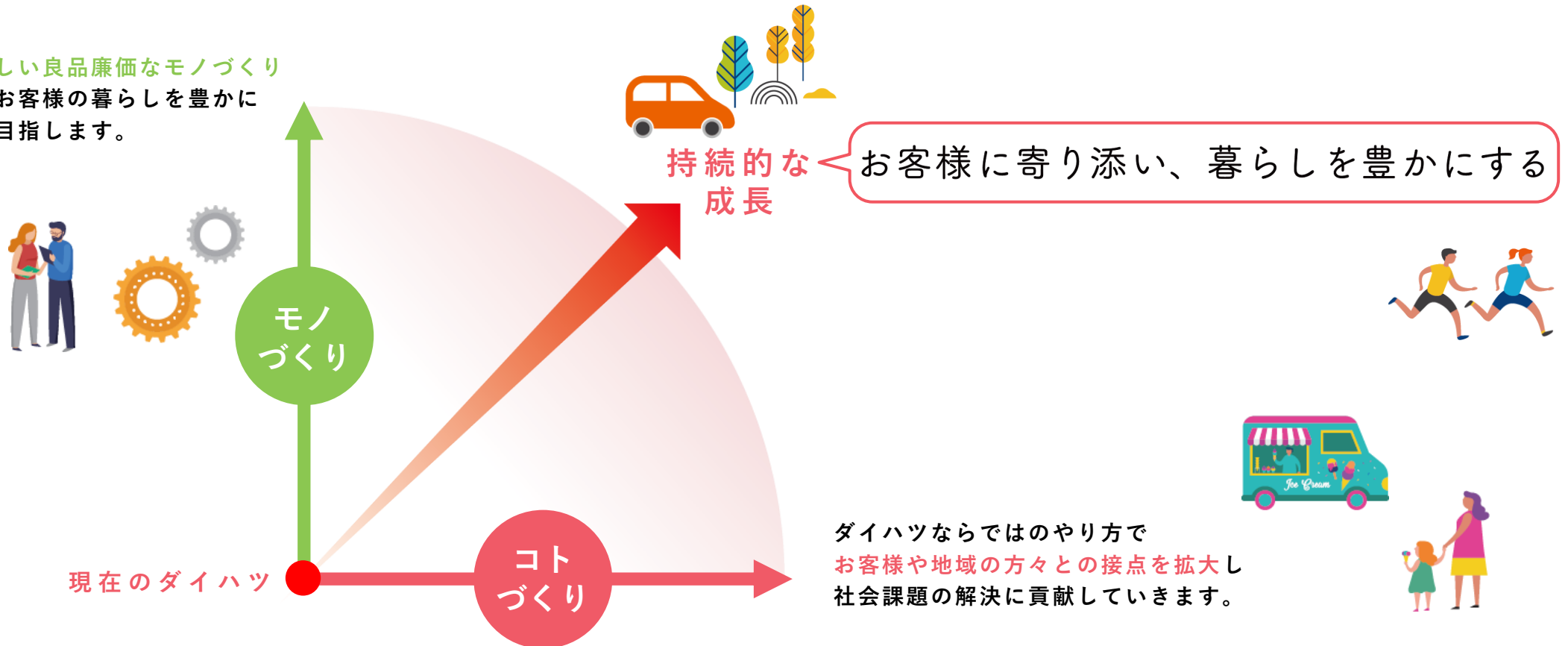
これからもダイハツは、それぞれの地域、お客様一人ひとりの生活に、真摯に向き合い、
自分らしく軽やかなライフスタイルを実現できる製品・サービスをお届けしてまいります。



ダイハツの目指す未来

「お客様に寄り添い、暮らしを豊かにする」という使命のもと、「モノづくり」「コトづくり」の両輪で事業を推進、2つを相互にスパイラルアップさせていくことで、持続的な成長を目指します。

ダイハツらしい良品廉価なモノづくりを通じて、お客様の暮らしを豊かにすることを目指します。



原点は日本の未来－エンジン国産化－への思い

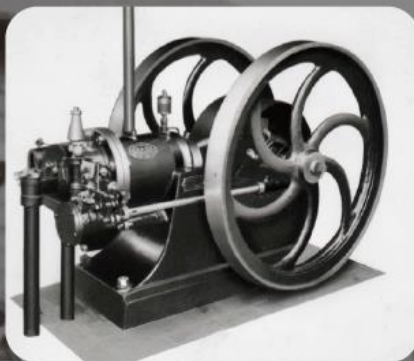
はじまりは国産第1号の 吸入ガス発動機

日本の産業革命が佳境に入ろうとしていた1907（明治40）年、「発動機製造株式会社」として大阪で創業。「日本の真の工業化には発動機（エンジン）の国産化と普及が不可欠、日本の産業に貢献しよう」との信念に基づき、官立大阪高等工業学校（現・大阪大学工学部）校長の安永義章博士ら学者たちや、その考えに共感した実業家たちが設立を計画しました。

しかし当時の内燃機関は輸入品による実物はあったものの、設計図や文献はなく技術者は連日連夜研究を重ねて幾多の困難に立ち向います。

そして1907年出力6馬力の国産第1号の吸入ガス発動機が完成。

この学者や技術者たちの熱い思いは、現在のダイハツの礎（いしずえ）となっています。



歴史ある自動車メーカー

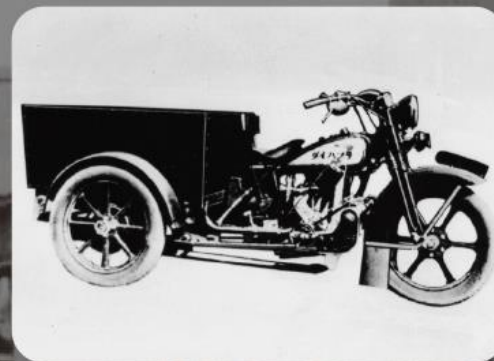
ダイハツは、現在自動車を生産する日本のメーカーで最も古い歴史を持つ会社です

エンジンメーカーから 自動車メーカーへ

昭和前期、世界恐慌による混乱の中、工場や物流会社などでは三輪自動車（オート三輪）の需要が高まっていました。

しかし、そのエンジンは輸入によるもの。そこで、創業期と同様に、この分野でも国産化を目指し、空冷4サイクルガソリンエンジンを新たに開発。さらに、このエンジンを搭載した小型三輪自動車「ダイハツ号」が完成しました。

このクルマこそが、近代化された工場で、日本製部品のみで作られた最初の製品であり、自動車メーカーダイハツの第一歩なのです。



「ダイハツ」は 元々愛称

ダイハツの由来は「大阪にある発動機製造会社」の略称としてお客様からダイハツと呼ばれていたことに始まります

お客様の声から誕生した「ミゼット」

戦後、急速な普及が進んだ三輪自動車(オート三輪)は大型化し四輪トラックへとシフトしていきました。このような状況の中、ダイハツは当時まだ一般的でなかった市場調査を実施しました。

「最近のオート三輪は、積載量が多いが価格も高いし大きすぎる、ただオートバイでは積載量が足りない。」というお客様の声を反映し、開発したのが、1957年発売の軽三輪トラック「ミゼット」です。「小回りが利いて、取り扱いに便利、かつ経済的」をコンセプトとした「ミゼット」は狭い路地でも運転しやすいと小口配送業者や商店の方々を中心に爆発的なヒット商品となりました。

ミゼットの誕生は、当時まだ高級品だった自動車が、「一家に一台」という身近な存在へ変わるきっかけとなりました。

お客様に寄り添うという想いは、

ダイハツのモノづくりの ^{いしずえ} 礎として現在まで受け継がれています



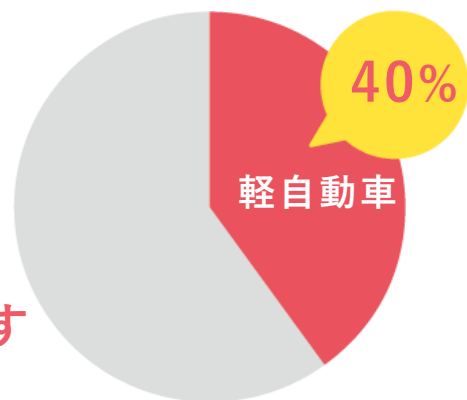
開発秘話

ダイハツは、積極的に販売会社の意見も取り入れました。1956年夏のある雨の夜、大阪梅田を歩いていた販売会社の社長は、ビールを積んだスクーターが横転しすべてのビール瓶が割れるという光景を目撃。こんなとき、幌付きの三輪スクーターがあったら、これほどの損害にはならなかったのでは…。この発想は直ちにダイハツに伝えられ、さっそくミゼットの開発に活かされました。

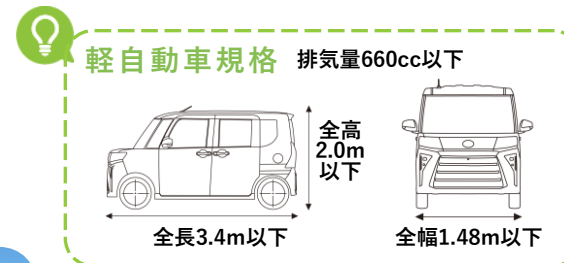
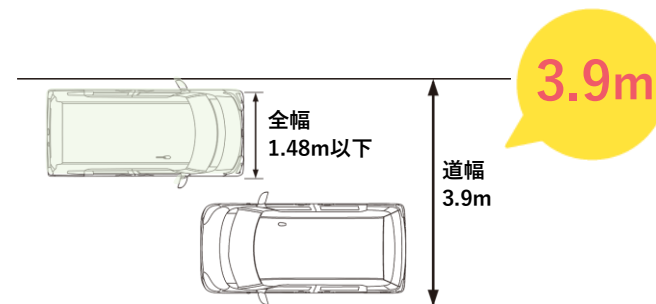


「ライフライン」としての軽自動車へのこだわり

日本の自動車保有台数
7,800万台のうち
軽自動車は3,100万台
40%※¹以上を占めています



日本の道路の
85%※²は
道幅平均3.9mの
市町村道です



誕生以来、日本の成長と共に進化を続けてきた軽自動車。

公共交通機関の利用が難しい地方部では、
軽自動車の普及率は「1家に1台」を超える地域もあり、
移動手段として欠かすことのできない「生活必需品」となっています。

日本ならではの狭い道路でも取り回しのしやすいコンパクトなボディ、
そして低燃費で経済性も高い軽自動車は、まさに「ライフライン」として
日々の生活や仕事を支えています。



ダイハツは、軽自動車にこだわり、日々の暮らしをより豊かにすることを目指しています。



お客様の多様なニーズに対応するために

日々の生活の「ライフライン」として、必要としている人がいるからこそ、ダイハツは乗用車/商用車
さらには福祉車両、特装車両など、お客様の多様なニーズに対応する車両をご提供しています。

日常使いはもちろんレジャー / アウトドア
など幅広いニーズに対応する軽乗用車



トラックやバンをはじめ、多目的ダンプ
などの特装車両も取りそろえる軽商用車



住宅街の細い道や限られたスペースでも乗り降り
しやすく、福祉車両としてのニーズにも対応



軽乗用車



軽商用車



軽福祉車両



小型乗用車



小型商用車

この多彩なラインナップを活かし、トヨタ自動車株式会社、株式会社SUBARU、マツダ株式会社にバラエティに富んだ車両をOEM供給しています。



全国津々浦々に広がるネットワーク

全国津々浦々で、
地域のお客様に寄り添った
販売、サービスを
提供しています。

車で
約10分圏内に
1店舗

(販売会社)
58社 725店舗^{※1}

(取り扱い販売拠点)

約6,000店^{※2}



※1 新車取扱店舗数 2024年9月時点 ※2 直営店・業販店(ピット店)合計

ダイハツならではの取組みで
その地域になくてはならない存在となることを目指しています。

次世代に向けての取組み

●MaaS事業の推進

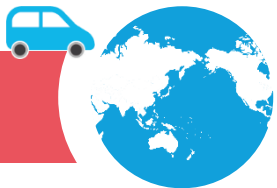
カーシェアリング/オンデマンド乗合送迎サービス「チョイソコ」^{※3}/
オールインワン移動販売パッケージ「Nibako」

●地域と繋がる入口となる取組みの実施

店舗でのマルシェ開催/健康安全運転講座の実施



※3 (株)アイシンが開発したAIオンデマンド交通システム



お客様に寄り添うモノづくりを海外へ

ダイハツは、トヨタグループの中で新興国向けの小型車事業を担っており、特に、インドネシアとマレーシアに現地生産・開発拠点を構え、事業を展開しています。



新興国でのクルマの普及を促進

日本の軽自動車で培ってきたスモールカーづくりの技術やノウハウを新興国にも展開し、**お求めやすい価格で、その国のお客様に喜ばれるクルマを提供しています。**

初めて新車を購入される若い世代をはじめ、多くの方にクルマをお届けすることで、すそ野を広げています。

現地の自動車産業の発展に貢献

現地のパートナー企業と連携し、本格的な生産工場を立上げるとともに、開発や部品調達の現地化を積極的に推進し、**雇用を創出、産業発展に貢献しています。**

さらに、その国のお客様に寄り添ったクルマづくりを目指し、デザインや開発など**ローカルスタッフの育成にも力を入れています。**





インドネシア、マレーシアを中心に事業を展開



インドネシア事業

人口：約2.8億人
(世界4位※1)



7人乗りMPV「セニア」

- 1978年 ● ダイハツ インドネシア社を設立
- 1992年 ● アストラ・ダイハツ・モーター社(ADM)を設立
- 2003年 ● トヨタとの共同開発車の生産開始
(ダイハツ「セニア」、トヨタ「アバンザ」)
- 2012年 ● カラワン新工場の稼働開始
- 2013年 ● エコカー政策「LCGC(Low Cost Green Car)」に適合したコンパクトカー「アイラ」(トヨタ名「アギア」)を発売
- 2017年 ● インドネシアの自動車メーカー初の本格的R&Dセンター開所

クルマの普及と
市場拡大
に大きく貢献

累計生産
800万台達成

(2023年5月時点)

生産台数シェア**No.1**

(2023年実績)



ADM R&Dセンター開所式の様子(インドネシア)※2



マレーシア事業

人口：約3,500万人
(世界47位※3)



コンパクトハッチバック「アジア」

- 1980年 ● ダイハツ マレーシア社を設立
- 1993年 ● 第二国民車プロジェクトへ参画し、現地資本と合併で、プロドゥア社を設立
- 2013年 ● 競争力強化に向け、新会社プロドゥア・グローバル・マニュファクチャリング社(PGMSB)設立
- 2014年 ● ダイハツ・プロドゥア・エンジン・マニュファクチャリング社を設立
● 構造改革第一弾 新型「アジア」発売



PERODUA

人材育成や商品
強化など現地の構造
改革に取り組む

販売台数
18年連続シェアNo.1

(2006～2023年)



PGMSB 工場



ダイハツが開発したクルマは約80の国や地域で活躍

※2023年時点

ダイハツが開発したクルマは、インドネシアのアストラ・ダイハツ・モーター社（ADM）、マレーシアのプロドゥア社に加え、トヨタグループの拠点（タイ、インドネシア、マレーシア、ベトナム、台湾）でも生産され、東南アジアを中心に約80の国や地域でご利用いただいています。



日本で磨き上げた良品廉価なクルマづくりで、世界中の人々の暮らしを支えています。

ダイハツの
モノづくり

お客様の日々の豊かな暮らしを支えます

ダイハツは良品廉価で環境にもやさしい、小さなクルマづくりを通じ、誰もが安全に安心して暮らすことができる豊かな社会の実現を目指します。



良品廉価

カーボン
ニュートラル

安全・安心



良品廉価



「お客様が日々の生活や仕事で本当に必要とされている商品をお求めやすい価格で提供する」
ダイハツが最も大切にしているクルマづくりの考え方です。

ダイハツはお客様の声を徹底的にヒアリングし、実際の使用シーンを現地現物で確認しています。

本当に必要とされているものを追求し、部品一つ一つを徹底的に合理化しています。

また、サプライヤーと連携し、オープン&フェアな調達活動などを通じ、軽自動車やコンパクトカーにふさわしい「良品廉価」を実現しています。

良品廉価を実現するための2つのキーワード

DNGA（ダイハツ ニューグローバル アーキテクチャー）

ダイハツ独自の新しいクルマづくり「DNGA」。軽自動車を起点とした「一括企画・開発」で新プラットフォームを開発。画期的な新技術を採用したCVTをはじめ、パワートレインからボディ、先進装備まで全方位で進化。2019年の新型「タント」以降、国内外のスモールカーに展開。



SSC（シンプル・スリム・コンパクト）

軽で事業が成立するビジネスモデルに向け、従来の約半分の面積と投資で同じ量を生産できる工場として、2007年にダイハツ九州大分（中津）第2工場を設立。シンプル・スリム・コンパクトな設備や工程で、高品質なクルマづくりを実現し、その技術やノウハウを国内外の工場に展開。



ダイハツ九州株式会社 大分（中津）工場

カーボンニュートラル



ダイハツは、各国目標に準じた将来的なカーボンニュートラルの実現に向け、製品・生産・物流などあらゆる分野でCO₂排出削減に取り組み、地球温暖化という社会課題の解決に貢献します。

製品分野でのカーボンニュートラル

ダイハツが提供する小さなクルマは軽量で低燃費、省資源で、環境負荷が少ない存在です。ダイハツは長きにわたりスモールカーにこだわり、技術を磨き上げてきました。そして現在、さらなるCO₂低減に向けて、それぞれの地域特性やお客様ニーズに適した電動化を推進しています。まずはHEV（ハイブリッド車）を投入するとともに、BEV（バッテリー電気自動車）の開発も進めています。

e-SMART HYBRID

STOP&GOの多い街乗りを中心とした、小さなクルマに最適なシステムとして、発電専用エンジンを搭載したシンプルな構造が特徴のシリーズ式ハイブリッドシステムを採用。
2021年発売のコンパクトSUV「ロッキー」に搭載。



生産分野でのカーボンニュートラル

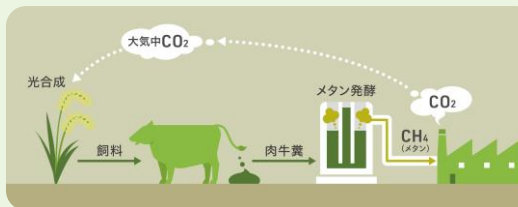
2035年に生産分野におけるカーボンニュートラル達成を目標に据え、「SSCの追求による徹底した省エネ化」「革新技術の開発と織込み」「再生可能エネルギーの活用」を3本柱として取り組んでいます。

京都(大山崎)工場のリファイン

次世代工場として2022年に本格稼働した京都(大山崎)工場では、塗装工程のドライブース化による空調リサイクルなどの独自技術を用いて、省エネ化。さらに、「人にやさしい」工場を目指し作業員への身体的な負荷の低減も推進。



バイオマス活用プロジェクト



牛糞から取り出したバイオガスを工場熱源として活用。地域の自治体や農家(耕種・畜産)と一体となった実証実験を推進中です。

安全・安心

すべてのお客様が、日々の生活や仕事で安全に安心して移動ができるモビリティ社会の実現を目指してまいります。



ダイハツは「先進技術をみんなのものに」という考えのもと、高価な先端装備を小型化・軽量化し、お求めやすい価格でご提供してきました。

例えば2012年には軽自動車ですべて衝突回避支援ブレーキを搭載し、世の中への普及のきっかけとなりました。

今後も安全・安心なモビリティ社会の実現に向け、ダイハツらしい先進装備を開発し、多くのお客様にお届けしてまいります。

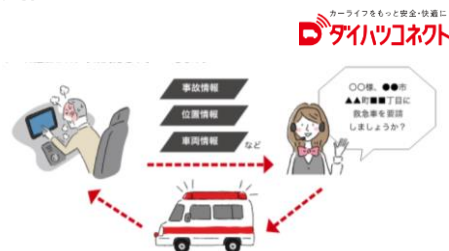
予防安全機能スマートアシスト

小型ステレオカメラ等で周囲を検知。
衝突回避支援や誤発進抑制などの
安全機能に加え、運転支援システムも搭載



ダイハツコネクト

ディスプレイオーディオやカーナビと
お客様のスマートフォンを連携し、
「つながる安心」と「快適・便利」を
ご提供するサービス

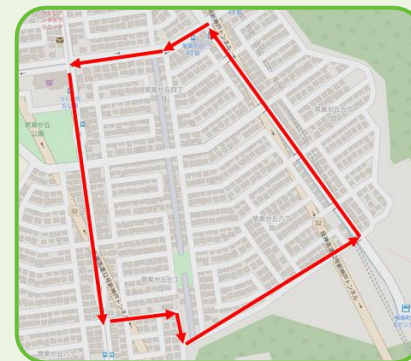


将来的な自動運転技術の実現を目指して

ダイハツは「いくつになっても自由に移動ができる社会」の実現に向け、自動運転の実証実験に取り組んでいます。

実証実験を行った神戸市北区の住宅街は、高齢化が進む郊外エリアのニュータウンであり、丘陵地域特有の坂が多く道幅が狭い環境なので、軽自動車が活躍できる地域です。

一方、人の横断や狭い道でのすれ違いといった、街中ならではの難しい制御や検知精度が必要であり、実証走行を何度も繰り返すことで、技術を磨いています。



©OpenStreetMap contributors

住宅街の走行ルート



ダイハツの
コトづくり

地域や社会の発展に貢献します

ダイハツは地域やお客様との接点を拡大する様々な「コトづくり」の活動を通じ、社会課題の解決と地域の持続的発展に貢献します。



少子高齢化や地方の過疎化、公共交通機関の減少など、
日本が抱える多くの社会課題に対し、ダイハツらしい地域に根差したやり方で解決をサポートし、
その街の持続的発展に貢献していきます。
また、子供たちの笑顔を増やし、地域社会がより明るくなるよう、
全国の販売会社とともに社会に寄り添っていきます。

地域に密着したモビリティサービスを提供し 「多様な移動ニーズ」へ貢献



いくつになっても
自由に移動でき
る社会の実現

地域密着プロジェクト「健康安全運転講座」

「産官学民」の連携により
シニアドライバーの健康と
安全運転を支援



オンデマンド乗合送迎サービス「チョイソコ」

移動手段が限られた
地域において、免許返納後
でも気軽に移動できる
サービスを展開



仕事や生活の
可能性を拡大

オールインワン移動販売パッケージ「Nibako」

軽トラックの荷台に設置す
る荷箱を貸し出し、移動販
売/販促のサポートを通じて
地域活性化に貢献



カーシェアリングサービス

販売会社の店舗などで
カーシェアを提供し、
地域に根差したサービスを
展開



人手不足の
解決をサポート

送迎支援システム「らくぴた送迎」

デイサービスなどの通所介護
施設で負担の大きい送迎業務
を効率化



福祉介護・共同送迎サービス「ゴイッショ」

自治体と連携し、地域の複数
の介護施設における送迎業務を
共同化し負担を軽減



ダイハツの
コトづくり

地域スポーツの活性化や子どもたちが 笑顔で暮らせる社会に貢献



文化 スポーツ

陸上競技部の活動に加え、全国の販売会社と連携し、バドミントンや女子サッカーの草の根支援活動を推進

ダイハツ
陸上競技部



バドミントン
(大会協賛や全国
小学生ABC大会
への支援など)



女子サッカー
(WEリーグへの
協賛やサッカー
クリニックの開
催など)



子どもたち

モノづくり体験教室

ダイハツ社員が小学校
などを訪問し、モノづく
りの楽しさを体感した
だけの出前授業を開催



ヒューモビリティワールド

小学校5年生の社会科
見学を主な対象とした
クルマの歴史と構造を学
ぶことができる展示館



モーター スポーツ

DAIHATSU GAZOO Racing

誰でも気軽に参加できる
イベントの開催や、
競技参加を通じてモーター
スポーツの裾野の拡大に貢献



ダイハツ車ユーザーであれば
誰でも気軽楽しめる
“D-SPORT&DAIHATSU
Challenge Cup”を開催





ダイハツは創業以来、お客様に寄り添い、暮らしを豊かにするスモールカーを提供することで社会の発展に貢献しながら、自らも成長してきました。今後も豊かな社会づくりに貢献していくため「モノづくり」と「コトづくり」の両輪で持続的な成長を目指します。サステナビリティ活動の重点分野として、人・社会・事業に関する「SDGs骨太カテゴリー」を策定し、着実に推進しています。

SDGs骨太カテゴリー

取組みテーマ

人権・多様性を
尊重し安全安心
な社会の構築

I 従業員 安全で幸せに働ける職場・風土づくり



社会から信頼
される企業を
目指す

II 企業 持続的成長に向けた事業基盤強化、国/お客様に寄り添う



誰もがいつまでも
快適に暮らせる
社会の構築

III 事業 クリーンな社会実現、安全で自由な移動と輸送を安価に提供



ダイハツの サステナ ビリティ



環境

次世代のために地球環境を
守る責任を果たします

- 2030年までの取組みプランを策定するとともに、生物多様性の保全をはじめとした自然共生活動を地域社会と連携しながら推進しています。



ダイハツグループ環境
アクションプラン2030

はぐくみの森 竜王



社有林内での生き物観察の様子

社会

安全・健康

一人ひとりに光を当てる『健康経営』への
取組みを推進しています

- 災害ゼロを目標に「安全に強い人づくり」「設備や取り扱う材料の安全対策」「きめこまかい安全管理」を進めています。
- 従業員の心身の健康維持のため、健康診断・禁煙セミナー・メンタルヘルス研修など幅広いサポートを行っています。



ダイハツ保健センター

ダイバーシティ・インクルージョン

多様な価値観を尊重し、働きがいある企業を目指します

- グループ企業内保育園
「だいはつのもり保育園」



- 障がい者の活躍促進

各部門の職場で受入れるとともに、
作業所を設立し、小物部品の梱包業務
などに従事しています。



販促用お菓子の
詰め合わせボックス



障がい者用トイレ

ガバナンス

ガバナンスの体制、リスク
マネジメント、コンプライ
アンスを企業経営における
最重要課題に位置付け、
企業価値向上を目指します

ガバナンス（内部統制）

経営陣の責任の明確化と従業員の適切
な業務の推進を両軸に社内外に対し透
明性の高いシステムを構築します。

リスクマネジメント

業務におけるリスクの洗い出しを行い、
損失の回避、または被害を最小限に
抑えるためにあらかじめ対応方法を
考えておく、全社リスクマネジメン
ト活動に取り組めます。

コンプライアンス

企業経営の重要な基盤として、役員と
従業員の全員が各種研修等を通じて社
会的に高い倫理観を持ち続け、法令順
守に真摯に取り組む姿勢を醸成します。



会社概要

- | | | | |
|----------|--|---------|--|
| ● 社名 | ダイハツ工業株式会社
(DAIHATSU MOTOR CO., LTD.) | ● 本社所在地 | 〒563-8651
大阪府池田市ダイハツ町1番1号 |
| ● 設立 | 1907年(明治40年) 3月1日 | ● 従業員数 | 12,470名(単独) ^{※1}
男性 11,458名 女性 1,012名
46,815名(連結) ^{※2} |
| ● 代表者 | 代表取締役社長 井上 雅宏 | ● 関連会社 | 連結子会社 60社
(国内 50社/海外 10社)
持分法適用会社 12社
(国内 9社/海外 3社) |
| ● 資本金 | 284億円 | | |
| ● 主な事業内容 | 自動車の製造および販売 | | |

※1 2024年4月1日時点 正社員・嘱託・シニアエキスパート(休職者含む)

※2 24年3月末時点の就業人数ベース



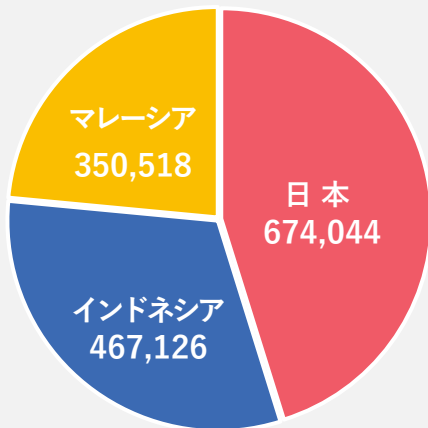


営業概況

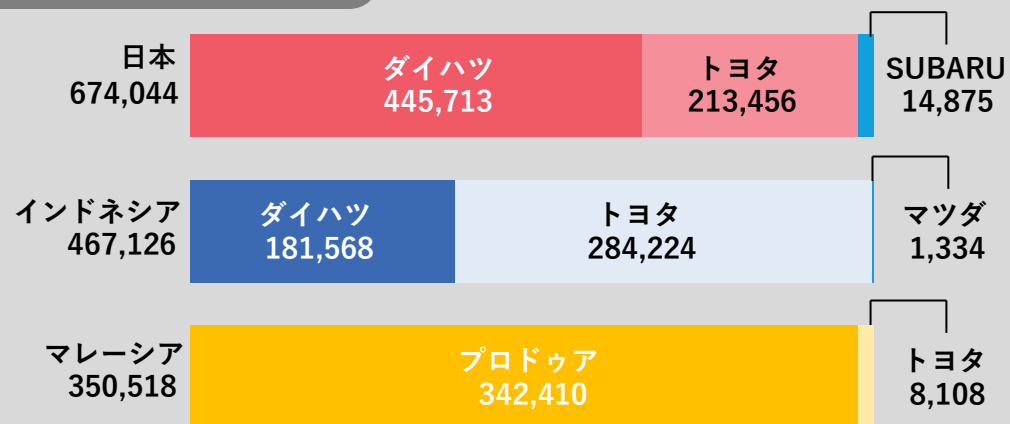
生産状況

世界生産合計
1,491,688台

2023年度（単位：台）



ブランド別生産台数



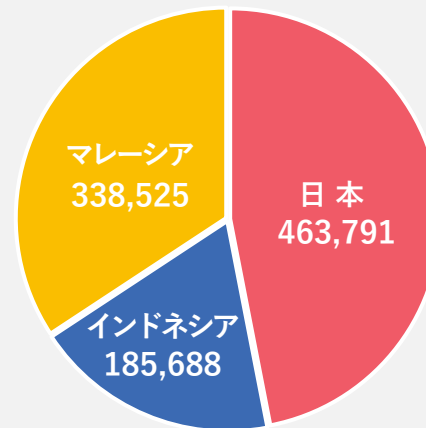
2023年度（単位：台）

販売状況

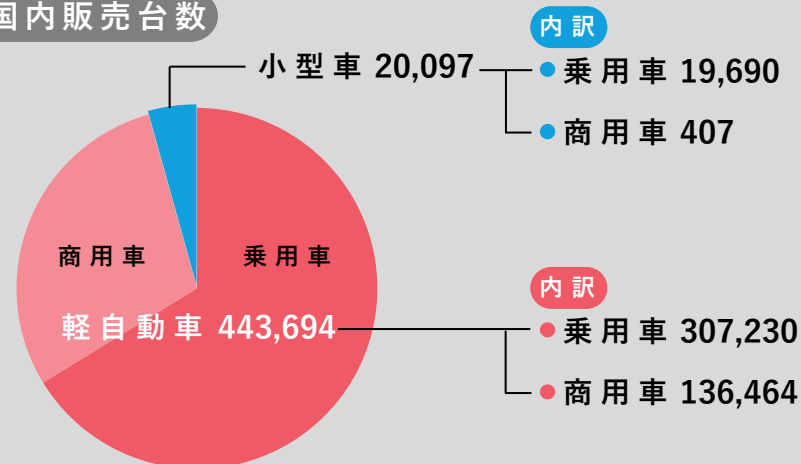
世界販売合計
988,109台※

2023年度（単位：台）

※その他の国含む



タイプ別国内販売台数



2023年度（単位：台）



主な車種一覧



主な国内車種

軽乗用車



ムーヴキャンパス



タント



ミライース



コペン



タフト

小型乗用車



トール



ロッキー

軽商用車



ハイゼットトラック



ハイゼットカーゴ



アトレー

小型商用車



グランマックスカーゴ

福祉車両



タントスローパー



タントウェルカムターンシート



タントウェルカムシートリフト

特装車両



ハイゼット多目的ダンプ



アトレーデッキバン



主な海外車種

インドネシア



AYLA (アイラ)



XENIA (セニア)



SIGRA (シグラ)



TERIOS (テリオス)



SIRION (シリオン)



GRAN MAX Minibus
(グランマックスミニバス)



GRAN MAX PICKUP
(グランマックスピックアップ)



Rocky (ロッキー)



LUXIO (ルクシオ)

マレーシア



MYVI (マイヴィ)



ALZA (アルザ)



AXIA (アジア)



BEZZA (ベザ)



ARUZ (アルズ)



ATIVA (アティバ)



主な国内事業拠点



- 1 本社
〒563-8651
大阪府池田市ダイハツ町1番1号
- 2 東京支社
〒103-0023
東京都中央区日本橋本町2丁目2番10号
ダイハツビルディング
- 3 本社(池田)工場
〒563-8651
大阪府池田市ダイハツ町1番1号
- 4 滋賀(竜王)工場/ 滋賀テクニカルセンター
〒520-2593
滋賀県蒲生郡竜王町大字山之上2910番地
- 5 京都(大山崎)工場
〒618-0081
京都府乙訓郡大山崎町字下植野小字北畑池1番
- 6 多田エンジニアリングセンター
〒666-0131
兵庫県川西市矢間3丁目21番2号
- 7 北伊丹事務所
〒664-0831
兵庫県伊丹市北伊丹9丁目37番地2
- 8 西宮部品センター
〒651-1431
兵庫県西宮市山口町阪神流通センター
1丁目78番1号
- 9 ダイハツグループ九州開発センター
〒839-1206
福岡県久留米市田主丸町吉本1番地2号
- 10 ダイハツ九州(株)大分(中津)工場
〒879-0107
大分県中津市大字昭和新田1番地
- 11 ダイハツ九州(株)久留米工場
〒839-1206
福岡県久留米市田主丸町吉本1番地



主な海外事業拠点

マレーシア



①
ダイハツ・プロドゥア・エンジン・
マニュファクチャリング社
(DPEM)

*エンジン製造拠点



②
プロドゥア・マニュファクチャリング社
(PMSB)

*車両製造・開発拠点



④
プロドゥア・グローバル・
マニュファクチャリング社
(PGMSB)

*車両製造拠点

③

②

③

④

クアラルンプール

ジャカルタ

インドネシア



⑤
アストラ・ダイハツ・モーター社
(ADM)

スンター工場
*製造・開発拠点



⑥
アストラ・ダイハツ・モーター社
(ADM)

カラワン工場
*製造・開発拠点



⑦
ダイハツ・ドライブトレイン・
マニュファクチャリング・
インドネシア社
(DDMI)

*CVT製造拠点

⑤

⑥

⑦

ダイハツの歩み (1907年～1980年代)

●1907

●1950

●1960

●1970

●1980

日本の産業革命期

戦後の復興と
国内モータリゼーションの幕開け

高度成長期モータリゼーションの
加速 - 自動車は一家に一台の時代へ

排ガス規制やオイルショックによる
原油高騰 - 軽自動車下火の時代

女性の社会進出などを背景とした
セカンドカーとしての軽自動車需要の高まり

主な国内車種の変遷



「6馬力吸入ガス発動機」
(1907)



小型三輪乗用車「Bee」
(1951)



軽三輪自動車「ミゼット」
(1957)



軽商用車「ハイゼット」
(1960)



軽乗用車「フェロー」
(1966)



小型4WD「タフト」
(1974)



小型乗用車「シャレード」
(1977)



軽乗用車「クオーレ」
軽商用車「ミラ・クオーレ」
(1980)



HA型三輪自動車「ダイハツ号」
(1930)



小型四輪トラック「ベスタ」
(1958)



小型商用車「コンパーノ・マン」
小型乗用車「コンパーノ・ワゴン」
(1963)



小型乗用車「コンソルテ」
(1969)



新規格軽乗用車「MAXクオーレ」
(1977)



小型乗用車「アブローズ」
(1989)

● 軽自動車の規格制定 (1949)

● 軽自動車税新設 (1958)

● 軽自動車規格改定 (排気量 550cc以下、全長 3.2m以下) (1976)

ダイハツの歩み

1 発動機製造(株)創立 (1907)

2 池田工場操業開始 (1939)

3 社名を「ダイハツ工業(株)」に
改称 (1951)

● 創立50周年 (1957)

● (株)ダイハツ前橋製作所
設立 (1960)

4 池田市に本社移転 (1965)

● 東京支社設置 (1965)

● ダイハツディーゼル(株)設立 (1966)

5 トヨタと業務提携 (1967)

● ダイハツ自動車販売(株)設立 (1968)

ダイハツ・インドネシア社設立 (1979)

6 大阪万博に電気自動車納入 (1970)

7 京都工場操業開始 (1973)

8 滋賀(竜王)工場操業開始 (1974)

9 シャレード
「'77 Car of the Year」受賞 (1978)

● ダイハツ・
マレーシア社設立 (1980)

● ダイハツ工業(株)とダイハツ自動車販売(株)合併 (1981)

10 シャレードがサファリラリーでクラス優勝
(1982)

ダイハツ陸上競技部創部
(1987)

● 滋賀(竜王)第2工場
操業開始 (1989)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12

社会の出来事

● 第一次世界大戦 (1914)

● 第二次世界大戦 (1939)

● 太平洋戦争終戦 (1945)

● サンフランシスコ講和条約締結 (1951)

● 東京タワー竣工 (1958)

● 東海道新幹線(東京～大阪間)開業 (1964) ● 沖縄返還 (1972)

● 東京オリンピック・パラリンピック開催
(1964)

● 第1次オイルショック (1973)

● 大阪で万国博覧会開催 (1970)

● 第2次オイルショック (1978)

● 東京ディズニーランド開園 (1983)

● 物品税引き上げ (1984)

● 男女雇用機会均等法成立
(1985)

● 消費税 (3%) 導入 (1989)

ダイハツの歩み (1990年代～2020年代)

●1990

●2000

●2010

●2020

軽自動車規格の変更 / ハイト系・スーパーハイト系など多様な軽の出現

世界的な環境意識の高まり
低燃費の軽自動車に“エコカー”としての注目

100年に1度の自動車変革期 -CASE、MaaS、
カーボンニュートラル実現に向けた取り組み推進

主な国内車種の変遷



軽乗用車「ムーヴ」
(1995)

新規格
軽乗用車「ミラ」
(1998)



新規格
軽乗用車「ムーヴ」
(1998)



新規格 軽乗用車
「テリオスキッド」
(1998)



軽スポーツカー「コペン」
(2002)



小型乗用車「ブーン」
(2004)



軽乗用車「ソニカ」
(2006)



軽乗用車「ミライース」
(2011)



軽乗用車「ムーヴキャンバス」
(2016)



「DNGA」第1弾
新型「タント」(2019)



軽乗用車「タフト」
(2020)



小型 SUV「ロッキー」に
e-SMART HYBRID
を搭載 (2021)



軽乗用車「タント」
(2003)



軽乗用車「エッセ」
(2005)



「スマートアシスト」搭載の
新「ムーヴ」(2012)



小型乗用車「トール」
(2016)

●軽自動車規格改定 (660cc以下、全長 3.3m以下) (1990)

●軽自動車規格改定 (全長 3.4m以下、全幅 1.48m以下) (1998)

●軽自動車税 税率変更 (2016)

ダイハツの歩み

13 滋賀テクニカルセンター完成 (1991)

14 アストラ・ダイハツ・モーター社設立 (1992)

15 プロドゥア社設立 (1993)

16 マレーシアで国民車「カンチル」発売 (1994)

●トヨタ自動車が株式過半数取得し、連結子会社化 (1998)

17 ダイハツ車体 (株) 大分 (中津) 工場操業開始 (2004)

18 インドネシアでトヨタとの共同開発車
「セニア」(トヨタ名「アバンザ」) 発売 (2004)

19 創立 100 周年 (2007)

20 ダイハツ九州 (株) 大分 (中津)
第 2 工場操業開始 (2007)

21 ADMカラウン工場操業開始 (2012)

22 マレーシアで PGMSB 設立 (2013)

23 インドネシアで「LCGC」適合の新型車「アイラ」(トヨタ名「アギア」) 発売 (2013)

24 プロドゥアで新型国民車「アジア」発売 (2014)

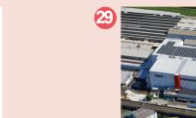
25 ダイハツグループ九州開発センター開所 (2015)

26 トヨタ自動車による完全子会社化 (2016)

27 新グループスローガン「Light you up」制定 (2017)

28 DNGAによる新商品投入開始 (2019)

29 京都 (大山崎) 工場新組立・塗装工場本格稼働 (2022)



社会の出来事

● バブル崩壊 (1991)

● 阪神淡路大震災 (1995)

● 消費税が5%に引き上げ (1997)

● 愛知万博 (愛・地球博) 開幕 (2005) ● 東日本大震災 (2011)

● リーマンショック (2008)

● 消費税が8%に引き上げ (2014)

● 新型コロナウイルスの世界的流行 (2020～2024)

● 東京オリンピック・パラリンピック開催 (2021)

● 消費税が10%に引き上げ (2019)



ダイハツ工業株式会社

〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号
ホームページ <https://www.daihatsu.co.jp>

2024年10月 発行